

『水』でつながるこころ

田原市・設楽町姉妹提携 20 周年

豊川上下流域として、水の縁でつながっている「海のまち」田原市と「山のまち」設楽町。姉妹提携をきっかけとして、さらにきずなを深めてきた二つのまち。

今年、提携20周年を迎え、設楽町において記念式典を開催しました。

▶ 政策推進課 ☎ 23 局 3507

交流のきっかけ

田原市と設楽町との交流は、昭和58年に小学校同士の交流会から始まりました。

その後、老人会や青年団、議会同士による交流、弓道の交流試合など、さまざまな分野で交流を重ねてきました。

姉妹提携を締結

交流が広がっていく中、平成2年3月24日、田原市（旧田原町）と設楽町（旧津具村）は、姉妹提携を締結し、きずなをより一層深めていくことを誓いました。提携により、設楽町は田原市にとって初めての姉妹



▲ 姉妹提携調印式で握手を交わす当時の柴田芳三・田原町長（左）と夏目重彦・津具村長（右）

都市となりました。

また、提携の翌月に完成したベンション「グリーンメッセージ」。田原市が交流拠点として「つぐ高原グリーンパーク」内に建設したこの施設は、現在でも設楽町を訪れる多くの方に利用されています。

❖ 交流の背景にあるのは「水」

昭和43年に豊川用水が全面通水してから、渥美半島の農業は飛躍的な発展を遂げました。この発展は、農家の方の意欲はもちろんですが、やはり潤沢な「水」があつてこそ。いまや容易に手に入ると錯覚してしまいがちな「水」は、上流域に住む方々の理解や協力により届けられていることを、下流域に住む私たちは理解しなければなりません。

田原市の農業や工業を支える「水」について、この機会にもう一度考えてみませんか。そして水でつながる「こころ」を育てていきましょう。



● 国産木材や間伐材の積極的利用は、「みどりのダム」として天然のダムの役割を果たす森を育てることにつながります。